

(対象事業：1.地域の中核館として他館や他機関等と連携して行う事業
2.先進的な展示・教育普及手法の開発等の事業)

事業名：芸術鑑賞講座事業

事業者名：香川県文化会館

連携事業館名：香川大学教育学部附属高松小学校
満濃町立四条小学校

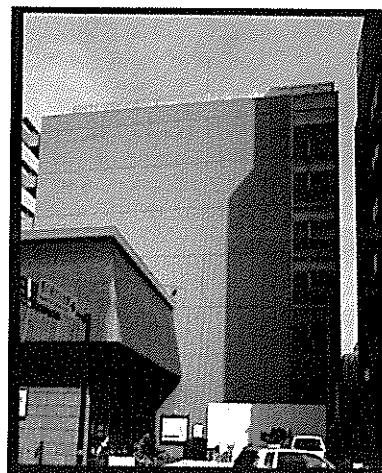
住所：香川県高松市番町1丁目10番39号

TEL：(087) 831-1806

FAX：(087) 831-1807

HPアドレス：

<http://www.pref.kagawa.jp/bunkakaikan/>



①施設概要

香川県文化会館は、1966年に総合的な文化施設として開館し、40年の歴史を重ねています。今日では、県立美術館として、美術作品の収集・保管やさまざまな展覧会に加えて、講演会やワークショップなども行っています。

②事業の意図目的

小中学校と連携して、香川県文化会館が所蔵する美術作品を学校に持参し、美術や総合学習の授業の一環として芸術鑑賞講座を開設し、児童・生徒に美術作品への興味を喚起させるとともに、理解を深化させ美術教育の充実を図る。

③事業概要

絵画作品を用いた芸術鑑賞講座は、平成13年度から実施しており、毎年多くの学校から申込みが寄せられるなど、一定の実績があがっている。

これに加えて、近年、香川の伝統工芸である漆工芸に対する興味・関心が高まり、県教育委員会でも「香川の漆芸」を刊行したほか、県下の小中学生が使用する「ふるさと香川」に「伝統の技がさえる香川漆器」が取り上げられるなどしている。

このように、漆作品の鑑賞機会が今後増加する傾向が見られるが、その制作過程を理解するための教材が不足していた。当館では、小中学校において効果的な講座を開催するための新しい教育普及方法を検討し、制作工程模型を利用した講座の開催が必要であると考えた。

このため、教材として漆工芸に必要な素材や道具のほか、制作過程を理解しやすいものとする段階的な模型を製作した。

実施の結果、漆とはどのようなものか、色のついた漆はどうして作るのか、文様の描き方はなど、多くの疑問に答えることができ、概ね好評であった。

④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 テキスト ワークシート その他 (漆作品制作工程模型)

作成した報告書等

ビデオ ()
冊子 ()
その他 ()

⑤参加者状況

参加者人数 延べ 56人

内 訳

香川大学教育学部附属高松小学校 3人
満濃町立四条小学校 53人

（１）事業の実施状況について

香川大学教育学部附属小学校は、低学年を対象として実施し、制作工程模型での解説では理解を深めるまでには至らず、当館が日本伝統工芸展の開催に合わせて実施している漆工芸の一技法である「蒔醤」を体験するワークショップで使用している漆の手板も利用して説明及び体験学習を行った。

満濃町立四条小学校は児童数が 53 名と多く、製作した模型 2 セットをもとにグループを分けて解説を行った。

今回製作した模型は、香川の漆芸を特徴付ける三技法（蒔醤、存清、彫漆）の模型で円盤状の素地（木）を八分割程度に区分し、蒔醤の場合、素地、漆の下塗り、下絵を描く、絵を線彫りする、線彫り部分に色漆を入れる、表面を研磨し余分な色漆を除くなどの工程をへて蒔醤製品が完成する過程を表現した。存清や彫漆についても同様である。



制作工程模型（存清）

また、材料となる漆や色漆の材料である色子、文様を掘り込む蒔醤剣などの道具も合わせて説明し、理解の促進に努めた。



漆工芸に用いる道具

（２）成果物について

漆工芸制作工程模型 ２セット

（３）参加者の反応

近年、生活環境の中で漆に接することはまれであり、「漆とはどのようなものか」から出発し、木の樹液であること、かぶれることがあること、昔から使われていたことなど基本的な事項から説明し理解を得た。

また、色のついた漆は漆と色子を混ぜて作ることや、漆は何十回も乾かしながら塗り重ねること、蒔醤剣など特殊な道具を用いること、蒔醤、存清、彫漆の違いなども説明を行い、いろいろな疑問が解消でき概ね好評であったが、家庭では汁椀やお箸などでしか漆製品に接しておらず、伝統技法で制作された作品そのものを理解させる工夫がいると感じた。

（４）芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

小中学校での芸術鑑賞は、各児童・生徒の興味・関心の度合いに合わせて考案された様々な手法や教材を駆使しなければならない。今回の実施に当っては、鑑賞プログラムの検討に十分な時間をかけ、対象となる鑑賞作品＝漆作品に合わせた教材を新たに開発し制作した。

当館がこれまで実施してきた「鑑賞」は、絵画作品に限定されたもので、描かれた内容や意図をとともに考えるという方法を用いてきたが、漆工芸作品は、素材、技法、意匠など、基本的な知識が備わっていなければ鑑賞が難しい作品であり、今回試みた基礎知識を簡単に理解できる模型の効果は大きいものがある。

ただ、先にも述べたように、伝統技法で制作された作品そのものを理解させる工夫、例えば「料紙硯箱」とは何かなど、も合わせて行う必要があると感じている。